



秋の組合活動へむけて！中央委員会開催



9月18日、大阪市教育会館東館で第423回中央委員会を開催しました。議長に岡山中央委員と中世古中央委員が選出され、議事がすすめられました。執行部より「当面の闘争推進に関する件」「2025年度末人事異動ならびに2026年度教職員定数改善に関する要求書」の提案を行いました。

質疑では萩原中央委員より、特別専科教諭の動向について、「キャリアの浅い新採用者が年度途中で兼務校に異動するのはさまざまな面で負担が大きい。市教組としてどう取り組んでいくのか」という質問がありました。執行部から「支部の学習会等で特別専科教諭を経験した方から、体験談を聞いて交流をする取り組みや、市教委に対しても組合員の意見を届け、制度をよりよいものにするための働きかけを継続している」と説明をしました。その後、討論に6人が参加し、専門部や支部から取り組みについての報告がありました。執行部原案が圧倒的多数の賛成により、可決・承認されました。



宮尾中央委員（事務職員部） 組織拡大をめざし、秋季組織行事を開催します。各地区対抗による大運動会の企画を実行委員会中心に始めています。また、9月27日には南部地区で阪堺電車貸切ツアー、28日には西部地区で野球観戦が実施されます。さらに学習会を開催し、人事委員会勧告に対する取り組みや、学校事務職員固有の課題の共通理解を図っていきます。学校事務職員がやりがいを感じながら、「すべては子どもたちのために」を胸に取り組みをすすめていきたいと思ひます。

造田中央委員（栄養教職員部） 9月6日に第42回栄養教職員部教研集会を開催しました。今年度より市教組教研の分科会の一つとなり、たくさんの参加者がありました。新採用、新組合員の若手からは「とても勉強になり前向きな気持ちになりました」「テーマが異なっていて良かったです」「アナログとデジタルの組み合わせで絵心のない自分もできそうなヒントがたくさんありました」などの感想がありました。また、栄養教職員部では、民間委託校交流会などで仲間の輪を広げていきたいと思ひます。



戸田中央委員（女性部） 8月28日に市教退と合同で手話歌の研修を行いました。講師の山口さんから『パプリカ』の手話歌をアレンジして教えていただきました。学習発表会などでも使えそうな手話歌でした。市教組教研のジェンダー平等分科会では、トランスジェンダーの笠場さきさんと東部支部の李さんをファシリテーターに講座を実施し、今の子どもたちが置かれている現状を聞きました。社会ではLGBTQについて理解が広まっているように感じますが、10代で自殺を考える当事者は53.9%ととても

高いです。保護者が子どもの困りごとに気づいていないことも多いです。当事者にとって相談できる選択肢があるだけでも精神的な負担の軽減につながると笠場さんは語られました。

辻野中央委員（北部支部） 市教組教研・教科別分科会では「どの子ども楽しいー時間♪感じててみよう、やってみよう！」というテーマで、西三国小の中世古さんに音楽の授業をしていただき。音楽の鑑賞の授業を楽しくするためのヒントをたくさん提示してもらいました。また、北部支部では11月22日に天王寺動物園での学習会を予定しています。「動物園から考える平和学習」を今企画中です。土曜日なので、お子さんと一緒に来ていただいて、共に学べるような会ができるといいなと考えています。



高岸中央委員（南部支部） 鹿児島・知覧FWに参加しました。特攻隊の基地跡や隊員が過ごした施設を見学。遺品や手紙が展示されており、特に体験者の話が印象的でした。出撃時は感情を封じていたが、不時着時に初めて死への恐怖や家族への思いが湧き、生き延びたいと強く願ったという話に心を打たれました。戦争が思考や自由を奪う恐ろしさを実感しました。8月22日、南部支部主催の「わいわいパーティー」では多くの分会が参加。少人数分会や久々の参加者を得て交流が盛り上がりました。FWの経験を共有し、仲間とのつながりを深めた充実した夏となりました。

横関中央委員（西部支部） 8月23日、新聞うずみ火編集長・矢野宏さんを招いて学習会を開催しました。『うずみ火』は反戦や人権尊重をテーマにした新聞です。今回はアジア太平洋戦争における大阪大空襲を中心に学びました。戦争の加害・被害の両面を学ぶ重要性、戦後80年を迎え、体験者から聞き取る機会が減少する中。紙芝居やインタビューなど多様な方法で体験者の声を記録・継承する活動、子どもたちに伝えることの大切さを強調されました。とても深い学びとなり、教育に携わるものとして、改めて平和の継承の意義を感じる機会となりました。



「活躍させたい」がつくる怖い社会



8月30日、「大阪・母と女性教職員の集い」が開催され、全体会では、関西学院大学教授の桜井智恵子さんの講演がありました。

桜井さんが最近耳にした小学4年生の会話の中で「算数の授業が月クラスと星クラスに分かれてんねん。天才クラスとバカクラスや！」という言葉があったそうです。習熟度別授業が結果として子どもたちの分断を生んでしまっている。そして最近気になる

のは、子どもは声を出さない、もう何も言わなくなってきたことだ。一体何が起きているのか？これらは子どもの声を聞く側の大人が疲弊し余裕がなくなっているということもあるかもしれないが、もっと構造的な原因が存在しているのではないか。

教育現場でも成果主義や能力主義が子どもたちに過度なプレッシャーを与え、声を上げられない状況を生んでいる。「活躍」することが、子どもたちが輝くための前提となり、規律を重視した教育活動の中で、心身が統治され、自由に思考・判断・表現する力をつぶされてしまっている。これらは平和学のガルトゥングがいう「構造的暴力」に置かれた状況である。

「誰かの役に立つからではなく、ただそこにいるだけで価値がある。存在そのものを承認する関係性が重要です。誰もが暮らせる方向性（社会）を選べる学校をめざし、反開発主義による社会の再生産につなげていきましょう」と桜井さんは呼びかけました。

マンガには、瞬時のわかりやすさと心に深く訴えかける力があります。『はだしのゲン』などの作品を通じて、戦争マンガが描き出す多様性と現在性を読み解きながら、平和について考察してみましょう。

2025年10月10日(金)
18時30分~20時
難波市民学習センター講堂

参加申し込みの方は、右のQRコードよりお願いします。お問い合わせは市教組本部
06-6942-3561 まで

もちろん当日参加も大歓迎！申し込み不要

市教組 継承の広場 2025

マンガが描いた戦争

～戦争体験や記憶の継承に向き合う～

吉村 和真さん
京都精華大学マンガ学部教授。思想史やマンガ文化を探求し、日本マンガ学会の設立や京都国際マンガミュージアムの開館に尽力。著書に『はだしのゲン』がいた風景』『差別と向き合うマンガたち』『複数のヒロシマー 記憶の戦争史とメディアの力学』等。授業や講演を通じてマンガの社会的・文化的影響を探る研究を展開中。



秋の闘いに備えて・・・全市分代会

9月30日、全市分会代表者会議を教育会館東館で開催しました。はじめに三谷委員長があいさつの中で、「文科省は給特法改正に伴い、教育公務員特例法施行規則を改正し、校務の類型を①学級を担任する業務、②学級を担任する業務以外の校務を定める。と二分化した。これは担任手当実施への布石とも見られる。また、学校と教師の業務の3分類においては教師以外が積極的に参画すべき業務の担い手として、“事務職員”という文言がたくさん出ている。事務職員の職務内容や現場の実態を理解していると言いたい内容だ。このような動きを注視し、実効性のある働き方改革を実現していかななくてはならない」と、全国的の動向を見据えながら、今後の取り組みへの決意を述べました。



次に吉川副委員長より市人勧についての速報と解説がありました。「今回の人勧のポイントは比較する企業規模の見直しとして、50人以上から100人以上規模の会社との比較となった。また、市教組の要求どおり、若年層だけではなく全世代の給料表の引き上げが勧告されたことは私たちの運動の成果と受け止めてもよい。引き続き、実質賃金の引き上げに向けて

市労連とも連携して取り組んでいきたい」との認識を示しました。

続いて、中松書記長より、次期大阪市教育振興基本計画の動向や、改正給特法への取り組みの進捗状況、秋以降の教文活動等の報告がありました。

参加者からは「給特法にかかわることが一番気になる。職場の分断やヒエラルキーにつながらないように取り組んでいただきたい」「率直に仲間を増やしたいです。組合員には市教組ニュース等で活動内容が伝わっているけど、組合員でない人にもいろいろな面から、なぜ給料が上がったか等を伝えていきたい」といった意見が出ました。最後は森野書記次長による団結ガンバローで、分会代表者会議をしめくりました。

【広報部メモ】 先日、20代の教員と平和学習について話をする機会があった。友人と広島平和記念資料館を訪れたとき、展示物の示す事実「正直こわかった」そうだ。今まであまり平和学習に触れてこなかったと言ったその人に迫る「実物」の力のすごさを感じた。「怖くても子どもたちに戦争の恐ろしさと平和の尊さを伝えていきたい」と悩むその人が、平和学習について学ぶ機会や場所を保障していくことと、いっしょに考えるなかまがたくさんいることを知らせていく大切さを感じた。(harurun)